

平成30年3月八戸市議会定例会一般質問(教育委員会事務局分)

(3月5日、6日、7日 3日間)

○3月5日(月)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
自由民主・市民クラブ 秋山 恭寛	3 観光行政について	(4) 三社大祭及びえんぶりの後継者対策について	社会教育課	1

○3月6日(火)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
自由民主・市民クラブ 高橋 一馬	4 子どもの健康づくりについて	子どもの肥満について		
		イ 肥満傾向の児童の現状と対策について	学校教育課	2
自由民主・市民クラブ 日當 正男	4 著作権教育について	(1) 子どもたちと教職員の著作権教育の現状について	教育指導課	3
		(2) 今後の著作権教育推進の取り組みについて	教育指導課	4

○3月7日(水)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
日本共産党議員団 苔米地 あつ子	3 新入学児童生徒学用品費等の入学前支給について	(1) 新中学1年生への支給状況について	学校教育課	5
		(2) 新小学1年生への支給について	学校教育課	6
	4 八戸市立図書館について	(1) 利用者数の推移について	図書館	7
		(2) 喫茶らいぶらりい閉店の経緯と今後について	図書館	9
自由民主・市民クラブ 森園 秀一	2 教育行政について	不登校児童への対応について		
		ア 不登校児童に対する学習支援の状況について	教育指導課	10
		イ 不登校児童生徒の学習支援に向けたモデル事業について	教育指導課	11
		ウ 連携中枢都市圏事業に伴う発達障がい等の相談窓口について	総合教育センター	13
公明党 中村 益則	3 教育行政について	(1) 学校施設におけるAED設置状況について	学校教育課	15
		(2) 児童・生徒・教職員に対するAEDの講習状況について	学校教育課	16
		(3) 主権者教育の取り組みについて		
		ア これまでの当市での子ども議会の開催状況について	総合教育センター	17
		イ 今後の取り組みについて	総合教育センター	18



## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	秋山 恭寛 議員
発言事項	3 観光行政について
発言の要旨	(4) 三社大祭及びえんぶりの後継者対策について
質問内容	八戸三社大祭及びえんぶり等の後継者対策、文化・技術の保存継承についての今後との取り組みについて伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○後継者対策として、三社大祭につづき、えんぶりの小学生向け副読本の作成を検討しており、こうした取組みを通して、ふるさとの文化に誇りと愛着を持つ子どもを育成し、後継者不足解消に寄与したい。</p> <p>○三社大祭の後継者育成のきっかけとなるよう、中学生・高校生・大学生を対象に、ボランティア等で気軽に三社大祭に参加できる仕組みを検討する。</p> <p>○今年度、無形民俗文化財後継者養成事業で「山伏神楽 U - 3 0」を開催したが、えんぶり等、他の民俗芸能においても、若手の成果発表や交流機会の提供を行う。</p> <p>○文化・技術の保存継承については、三社大祭の歴史的な用具の修理・新調を行うことにしており、老朽化した<small>おがみ</small>竈神社の山車人形について、国庫補助制度を活用した修理・新調事業の実施と、その周知を行う。</p> <p>○えんぶりは、演目や古文書等の網羅的な記録調査が未実施であることから、専門家による民俗調査と映像記録の実施を計画している。調査事業を通して、えんぶり組が自らの文化の素晴らしさを再認識し、保存継承への意欲を高める機会となるよう努める。</p>
担当課	社会教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	三社大祭小学生向け副読本の作成や、山伏神楽 U-30 は、よい取組だと思うので、引き続き実施するよう要望する。

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	高橋 一馬 議員
発言事項	4 子どもの健康づくりについて
発言の要旨	子どもの肥満について イ 肥満傾向の児童の現状と対策について
質問内容	肥満傾向の児童の現状と対策について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○文科省では、児童生徒の栄養状態を示す指標として「肥満度」を用いており、肥満度 20%以上を、肥満傾向児としている。</p> <p>○29 年度の肥満傾向児の割合は、小学校、11.0%、中学校、11.5%であった。県平均と比較すると低い状況にあるが、全国平均に比べると、各学年で2～3%程度高い値を示している。</p> <p>○肥満傾向児の推移を見ると、15 年度をピークに、減少に転じてきてはいるものの、23 年度からは、横ばいの状態が続いている。</p> <p>○市教委では、肥満傾向改善に向けて、教育振興基本計画の重点施策に「新体力テストを活用した運動機会の確保」及び「栄養教諭・学校栄養職員を活用した食に関する指導の充実」を掲げ、全市的に取り組んでいるところである。</p> <p>○各学校では、保護者を含めた学校保健委員会を開催し、学校医の助言を受けながら、生活改善に向けた意識啓発にも取り組んでいる。</p> <p>○市教委としては、生涯にわたって健康でたくましく生きる児童生徒の育成には、学校と家庭が連携した指導が重要であるという認識のもと、肥満傾向児のみならず、全ての児童生徒の望ましい生活習慣の育成に努めていく。</p>
担当課	学校教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	朝食の摂取状況は、どのような状況にあるか。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○29 年度「第2次健康はちのへ21」に関するアンケート調査によると、85.7%の児童生徒が、朝食を毎日食べると答えている。全国と比較すると、高い値ではあるが、24 年度調査と比較すると、3.9 ポイント低下している。</p> <p>○各学校では、「早寝早起き朝ごはん」「スポーツと食事」「生活習慣病予防」などをテーマに、栄養教諭・学校栄養職員を活用した食に関する指導が行われており、29 年度は 46 校で実施している。</p> <p>○市教委としては、学校と家庭が一体となり、食生活の改善が図られるよう、引き続き支援していく。</p>

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	日當 正男 議員
発言事項	4 著作権教育について
発言の要旨	(1) 子どもたちと教職員の著作権教育の現状について
質問内容	当市における子どもたちと教職員の著作権教育の現状について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○現行の学習指導要領では、小・中学校の国語、道徳に加えて、中学校の国語、音楽、美術、技術・家庭科において、著作権や肖像権、知的財産権についての理解を深めることが指導事項として示されている。</p> <p>○新学習指導要領では、著作権に関する指導は情報モラル教育の一部として位置付けられ、教科等横断的な視点で指導することが求められている。</p> <p>○著作権や肖像権を含め、インターネットを利用する際の留意点やマナーを学ぶ「ネット安全教室」など、外部講師を招聘した児童生徒対象の学習会を、29年度は市内小・中学校の半数以上が実施している。</p> <p>○児童生徒は、各教科の学習や安全教室等を通して、著作権など作者の権利を尊重することについて学習している。</p> <p>○昨年度、著作権を含む情報モラルに関する教職員対象の研修会を校内研修として実施した学校は、市内12校あった。</p> <p>○教科等研究委員による研究分野に、「インターネットセーフティ部会」を位置付け、今年度は、「ネット社会における適正なモラルやコミュニケーション能力を段階的に育てる指導」について研究し、その研究成果を研究発表会において、市内小・中学校教員と共有している。</p> <p>○インターネット環境の進展に伴い、著作権が発生する場面や対象物が多岐に渡り、児童生徒はもとより教職員も、著作権についての理解が進んでいないのが実状である。</p> <p>○市教委としては、今後も著作権を含む情報モラル教育の充実を、本市の喫緊の課題としてとらえ、小・中学校の教職員との連携を図りながら一層の充実を図っていく。</p>
担当課	教育指導課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	日當 正男 議員
発言事項	4 著作権教育について
発言の要旨	(2) 今後の著作権教育推進の取り組みについて
質問内容	今後の著作権教育推進の取組について教育長の所見を伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○市教委としては、これまで教育行政の重点施策の一つとして、「教育の情報化の推進」を掲げ、ICT機器の有効活用によって児童生徒の学習意欲を高め、確かな理解につながる授業づくりを推進することによって、思考力・判断力・表現力の育成に努めてきた。</p> <p>○今年度からは、「情報モラル教育の推進」を重点施策に加え、児童生徒のインターネットトラブル防止に向け、情報モラル教育の推進に努めている。</p> <p>○来年度は、新規事業として「インターネットトラブル防止教室支援事業」を立ち上げ、インターネットを介したトラブルや著作権トラブルなどへの対処方法を身に付ける研修会の開催に向けて支援する。</p>
担当課	教育指導課

## ◎再質問

再質問の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	<p>○外部の研修会に毎年どれくらいの先生方を派遣しているのか。</p> <p>○子どもたちの著作権に関する学習と教師の教育活動に関する著作権について、先生方が日頃感じていることや疑問に感じていることにはどのようなものがあるか。</p>
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○文科省が実施した「平成28年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」によると、昨年度、情報モラルを含むICT活用指導力に関する研修を受講した教員の割合は、全国平均が40.6%であるのに対して、本市の平均は38.7%だった。</p> <p>○昨年7月、青森市で開催された文化庁主催の「著作権セミナー」への本市からの参加はなかった。</p> <p>○市教委は、本市の中核市移行に伴い、教職員の研修体系を見直し、充実を図ってきた。今後は、研修講座を通して、教職員の著作権に関する基礎的な理解を深め、さらに著作権制度の知識や意識の向上を図っていく。</p> <p>○日本教育情報化振興会が文化庁と協力して実施した「学校における著作権教育アンケート調査」によると、児童生徒の著作権に関する理解を深めることが重要だと感じている教員の割合は、全国平均で84.8%だったものの、著作権に関する指導に充てた時間数は、小・中学校ともに年間1単位時間程度という回答が最も多く、本市においても同様の傾向にある。</p> <p>○学校現場からは、「学校における著作権の例外措置についての理解が十分ではない」「指導にあたって判断に迷うことが多々あり、不安を感じる」などの声が寄せられ、著作権について、系統的な指導の必要性を感じているものの、具体的な指導方法については、理解が十分ではない現状にある。</p> <p>○市教委としては、教職員の著作権教育に対する理解を一層深めるよう努めていく。</p>

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	苫米地 あつ子 議員
発言事項	3 新入学児童生徒学用品費等の入学前支給について
発言の要旨	(1) 新中学1年生への支給状況について
質問内容	新入学児童生徒学用品費等の中学校入学前支給の実施状況について伺いたい
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○新中学1年生への新入学児童生徒学用品費等の支給は、これまで、中学校入学後の6月に実施してきた。</p> <p>○入学前の支給については、保護者のアンケート結果や市小・中学校長会の意向も踏まえ、平成30年度中学校入学予定者から前倒しで支給することとした。</p> <p>○今年度は、平成30年1月1日時点で準要保護の認定を受けている小学校6年生338人中、約90%に当たる307人から申請があり、2月23日に支給した。</p> <p>○本来、4月1日に準要保護の認定を受けている生徒の保護者へ支給すべき就学援助費の前倒のため、支給要件として、</p> <p>①平成30年1月1日時点で本市の就学援助の認定を受けていること、</p> <p>②平成30年4月に本市に住所を有し、市立中学校に入学予定であること、</p> <p>③中学校入学後も本市の就学援助の認定となる見込みであること、</p> <p>の、全ての要件を満たしている家庭を対象とした。</p> <p>○支給要件を満たさなくなった場合は返納してもらうことになるため、その旨、保護者向けのチラシで周知するとともに、学校での受付の際にも、事務担当者にマニュアルを配付し、転出や婚姻、所得増等、認定解除となる予定がないことを確認の上、申請してもらった。</p> <p>○今年度初めて実施したが、学校や保護者から特に苦情等の連絡はなく、スムーズに支給できたと認識している。</p>
担当課	学校教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
--------	--

## ◎要望

要望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	前倒し支給後、所得超過により支給要件を満たさなくなった場合であっても、返納しなくていいように検討してもらいたい。

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	苫米地 あつ子 議員
発言事項	3 新入学児童生徒学用品費等の入学前支給について
発言の要旨	(2) 新小学1年生への支給について
質問内容	新入学児童生徒学用品費等の小学校入学前支給について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○今年度、新中学1年生への新入学生徒学用品費等の入学前支給を実施したが、新小学1年生についても、中学校同様に、必要な経費を必要な時期に支給することの有用性は十分認識している。</p> <p>○小学1年生についても、平成31年度小学校入学予定者を対象に、小学校入学前に支給する予定で準備を進めている。</p> <p>○なお、認定申請や受付方法等、事務手続きの詳細については、できるだけ学校現場の負担とならないよう、他の自治体の取組を参考にしながら、今後、検討していきたいと考えている。</p>
担当課	学校教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
--------	--

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
-------	--



## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	苫米地 あつ子 議員
発言事項	4 八戸市立図書館について
発言の要旨	(1) 利用者数の推移について
質問内容	「本のまち八戸」を推進している中で、八戸市立図書館が果たす役割は大きい が、図書館の利用者数の推移など、現状について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○本館の貸出利用者数は、平成 24 年度 173,993 人から 28 年度 167,261 人へと推移し、24 年度対 28 年度では 3.9%減少している。</p> <p>○貸出冊数は、平成 24 年度 635,423 冊から 28 年度 624,372 冊へと推移し、24 年度対 28 年度では 1.7%減少している。</p> <p>○平成 28 年度の利用者数を年齢層別に見ると、0～6 歳までは 6,500 人で 24 年度から 18.8%増加、7～22 歳までは 21,474 人で 15.8%減少、23～59 歳までは 76,020 人で 14.3%減少、60 歳以上は 62,136 人で 15.6%増加している。</p> <p>○貸出利用者数が全体で 3.9%減少しているが、6 歳以下及び 60 歳以上の利用者数は増加している。</p> <p>○6 歳以下の増加は、ブックスタート事業や、同事業と連動した図書館での絵本の読み聞かせやおはなし会なども功を奏しているものと考えている。</p> <p>○60 歳以上の増加は、高齢者人口の増加とともに図書館の役割が生涯学習の拠点として定着してきていると考えている。</p> <p>○また、八戸ブックセンターのオープン前 1 年間とオープン後 1 年間の貸出利用者と貸出冊数を比較すると、オープン前とオープン後では、利用者数はほぼ同数であり、貸出冊数は 0.7%増加している。</p> <p>○今後とも、ブックセンターを始め、「本のまち八戸」の各事業と連動した企画に取り組むなど、図書館の利用促進に一層努めていく。</p>
担当課	図書館

## ◎再質問

再質問の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	司書や学芸員など、有資格者の人数は十分か。有資格者がもっといれればどうか。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>【議場では時間切れのため答弁なし】</p> <p>○29年度の図書館本館職員 27人中、正職員と嘱託職員を合わせて、司書は6人、学芸員は4人いる。</p> <p>○司書は、主に本や資料の選定、読書案内などを、学芸員は、歴史資料の選別・整理・保存などを担っている。</p> <p>○また、資格を持たない職員に対しては知識習得・資質向上のため、初級から上級向けと段階に応じた業務研修、児童サービスや資料保存などの専門的な研修を受講させている。</p> <p>○こうした取組を通して、限られた人材を最大限に活かしながら、今後もより質の高いサービスが提供できるよう努めていく。</p>

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	苫米地 あつ子 議員
発言事項	4 八戸市立図書館について
発言の要旨	(2)喫茶「らいぶらりい」閉店の経緯と今後について
質問内容	喫茶「らいぶらりい」が閉店になった理由について伺いたい。また、喫茶があった場所を今後どのように利用していくのか伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input checked="" type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>【議場では時間切れのため答弁なし】</p> <p>○図書館内の喫茶「らいぶらりい」は、読書の普及活動の推進及び文化水準の向上に寄与することを目的として設立された、一般社団法人「八戸市読書団体連合会」により、現在の図書館が開館した昭和 59 年 6 月から営業されていた。</p> <p>○使用料については、喫茶の運営収益が読書普及活動の経費の一部に充てられることから、市の規定により半額減免措置としてきた。</p> <p>○喫茶の経営は、10 年程前までは黒字だったが、その後は利用者の減少で赤字が続き、昨年 2 月に読書団体連合会の代表者から、財政難により閉店したいという申し出があり、昨年 3 月末で閉店に至った。</p> <p>○喫茶閉店後、空きスペースには飲料の自動販売機 1 台を設置し、利用者が自由に飲食したり、休憩や電話ができるスペースとして使用している。</p> <p>○今後の活用については、アンケート調査を実施するなど、利用者の声を踏まえながら検討していく。</p>
担当課	図書館

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	森園 秀一 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	不登校児童への対応について ア 不登校児童に対する学習支援の状況について
質問内容	各学校では、教室で授業を受けることができない児童生徒に対して、どのような学習支援を行っているのか。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○市内小・中学校では、不登校児童生徒への学習支援について、当該児童生徒の登校の状態によって段階的に対応している。</p> <p>○例えば、学校に足を運ぶことができない児童生徒に対しては、学級担任が計画的に家庭訪問を行い、学習支援等を行っている。</p> <p>○また、登校はできるものの、教室に入ることができない児童生徒に対しては、各学校が設置している適応指導教室や保健室等、学級以外の場所で学習支援を行っている。さらには、個々の状況に応じて「こども支援センター」内にある適応指導教室を活用しているケースもある。</p> <p>○不登校児童生徒については、在籍する学校や学級に復帰することを目指しつつも、中学生であれば、中学校卒業後の進路選択も見据え、学習支援等に努めている。</p> <p>○しかしながら、子どもの心身の状態や家庭事情等によっては、対応が難しい面が多々あることも事実であり、学校現場の課題となっている。</p>
担当課	教育指導課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	森園 秀一 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	不登校児童への対応について イ 不登校児童生徒の学習支援に向けたモデル事業について
質問内容	12 月市議会一般質問において、不登校の子どもたちに対する学習支援の在り方等についてモデル校を指定し、調査・研究を進めていきたいという答弁があったが、その後の進捗状況について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○市教委では、12 月市議会での議員からの御提案を踏まえ、不登校児童生徒の学習支援の在り方について、国立教育政策研究所の委託事業である「魅力ある学校づくり調査研究事業」を活用し、調査・研究に取り組むこととした。</p> <p>○本事業は、小・中学校のいずれかをモデル校に指定し、不登校やいじめの問題の未然防止に向けた具体的な方策を研究するとともに、不登校児童生徒等に対する個別支援の方法等についても調査・研究するものである。</p> <p>○本事業の指定については、既に国立教育政策研究所から県教委を通じて、決定通知が届いており、30 年度から 31 年度までの 2 か年で調査・研究に取り組むこととしている。</p> <p>○初年度は、市内中学校 1 校をモデル校に指定し、その取組を受け、次年度はモデル校を複数校とすることを予定している。</p> <p>○本年 2 月に、文科省において事業説明会が開催されたところであり、当市から担当指導主事 1 名が出席し、事業概要等の具体的な説明を受けてきたところである。</p> <p>○市教委では、本事業を通じて、「不登校の未然防止に向けた授業づくりや集団づくり」及び「不登校児童生徒への学習支援を含めた組織的な対応の在り方」の両面から調査・研究を進めていくこととしている。</p> <p>○詳細については、今後、モデル校と協議を重ね、学校課題等も勘案しながら取り組むたいと考えている。</p> <p>○本事業を通じて「不登校の未然防止に向けた家庭や学校間の連携」、「教職員の意識改革」、さらには、「学習塾等の外部機関と連携した学習支援」の在り方についても具体的な取組が提案できるものと期待している。</p>
担当課	教育指導課

## ◎再質問

再質問の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	<p>当市では生活福祉課が所管する「はちのヘスタディサポートセンター」という学習支援事業があり、年々内容等が充実されてきており、現在は市内の様々な事情を抱えた子どもたちが学ぶ場として利用されている。</p> <p>今後は、不登校の子どもたちの学習支援の場としても活用され、小・中学校との連携も必要になっていくものと考えている。「はちのヘスタディサポートセンター」における学習機会も、在籍校での出席扱いと見なすなどの支援体制づくりを整備することができないか伺いたい。</p>
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○「はちのヘスタディサポートセンター」は、議員御案内のとおり、様々な家庭事情を抱えた子どもたちの学習機会を担保する目的で開設されているものであり、不登校の状態にある子どもも学んでいると聞いている。</p> <p>○議員から御提案のあったことについては、今後、モデル事業の取組を通じ、外部機関等との連携の在り方について研究していくことを考えている。</p> <p>○「はちのヘスタディサポートセンター」での学習機会を出席扱いと見なす事については、文科省が示す要件と照らし合わせて、出席扱いが可能かどうか研究していく。</p>

## ◎要望

要望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	<p>学習支援については、教育委員会と生活福祉課とが情報の共有を図りながら、生徒に寄り添えるような学習支援の在り方について検討していただきたい。</p>

## 資料（記載方法）

質問者(議員名)	森園 秀一 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	不登校児童への対応について ウ 連携中枢都市圏事業に伴う発達障害等の相談窓口について
質問内容	連携中枢都市となり、こども支援センターに寄せられる三戸郡やおいらせ町の保護者からの相談件数及び対応等の状況について伺いたい。 また、今後の方向性について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○平成 30 年 1 月末のセンターへの相談件数は延べ 3,453 件、開設前の 26 年度同時期の 2.2 倍である。</p> <p>○寄せられる相談のほとんどが八戸市内からで、今年度 1 月末現在の圏域町村からの相談実数は 7 件、不登校に関する相談が主な内容で、センターでは市内同様、電話や来所相談で対応し、継続的に面談を実施しているケースもある。</p> <p>○圏域町村の不登校や発達障がい等の教育相談については、基本的には、それぞれの町村の教育委員会が窓口となり、必要に応じて県教委が配置しているスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの相談につなげたり、独自に相談員を配置したりするなどして対応していると聞いている。</p> <p>○しかし近年、子どもが抱える問題は障がい等の重複も含め、多岐にわたり複雑化しているため、医療・福祉・保健等との連携が必要となり、より専門的な相談体制づくりが求められている。</p> <p>○今後、市教委では、他町村から寄せられる相談にも柔軟に対応できる体制づくりについて、関係町村と協議しながら検討していく。</p>
担当課	こども支援センター

## ◎再質問

再質問の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	今後、こども支援センターが相談窓口として圏域町村に周知されると、現在よりも圏域町村からの相談が増加すると考える。その場合、市教委として、どのように相談に対応していくのか伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	○ 圏域町村に相談窓口として周知が図られると、現在よりも圏域町村からの相談は増加すると考えられる。 ○ 市教委では、圏域町村の相談窓口はそれぞれの町村の教育委員会であることを原則としながら、今後、圏域町村から寄せられる相談にも柔軟に対応できる体制づくりについて関係町村と協議、検討していく。

## ◎要望

要望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	発達障がい等の相談支援を行うに当たり、圏域町村からの相談も想定した目標や計画を策定することを要望する。



質問者(議員名)	中村 益則 議員
発言事項	3 教育行政について
発言の要旨	(1) 学校施設におけるAED設置状況について
質問内容	市内小・中学校のAEDの設置状況と各校の設置場所について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○自動体外式除細動器(AED)の使用は、以前は医療行為とされ、医師の指示の下での看護師、救急救命士等に限定されていた。しかし、平成16年7月、厚生労働省通知により、医療従事者以外でもAEDの使用が可能となった。</p> <p>○この法改正を踏まえ、市教育委員会では、17年度から各学校へのAED設置を進め、20年度には、市内小・中学校全てに設置が完了している。</p> <p>○文科省が20年度に実施した「学校におけるAEDの設置状況調査」によると、全国の小・中学校におけるAED設置率は、77.3%であり、本市では、速やかに設置が進んだことがわかる。</p> <p>○AEDの設置場所については、日本循環器学会の「児童生徒の心停止は、84%が運動に起因する」という提言を踏まえ、校庭、プール、体育館等の運動施設に近く、事故が発生した際に素早く対応出来る場所への設置を推奨している。</p> <p>○市内小・中学校の現状を見ると、玄関ホールや職員室前の廊下等、持ち出しやすく、目につきやすい場所に設置している学校が多く、玄関には、設置場所を示す表示をしている。</p> <p>○これは、教職員に限らず、一般市民であっても、緊急の場面に遭遇した際には、迅速に取り出し対応することを想定しているためである。</p> <p>○設置以降、児童生徒に対してはAEDが使用された例はないが、一般市民や教職員に対して、数件の使用例が報告されている。</p>
担当課	学校教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	中村 益則 議員
発言事項	3 教育行政について
発言の要旨	(2) 児童・生徒・教職員に対するAEDの講習状況について
質問内容	児童生徒及び教職員に対する、AEDの講習の状況について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○市教委では、全ての教職員がAEDによる応急処置の手順や技能を習得する目的で、毎年度、「AED実技講習講座」を開催している。これまでに、管理職を含む全ての教職員が計画的に受講している。</p> <p>○近年は、本研修講座での講習内容を踏まえ、学校ごとに「救急法講習会」を開催する学校が増えている。</p> <p>○また、児童生徒を対象とした講習会については、今年度では、小学校2校、中学校19校において開催されている。</p> <p>○講習会では、市学校保健会所有のAEDトレーナーセットを活用するとともに、外部講師を招いて、児童生徒、教職員、保護者が、実際の場면을想定した内容で実施している。</p> <p>○児童生徒が救急救命法を学ぶことは、万が一、事故等に遭遇した際、速やかに行動できる判断力を養うとともに、自他の命の尊さや共に助け合う心が育まれる機会でもあると考える。</p> <p>○このことから、市教委が作成した「防災ノート」の小学校上学年用と中学校用にも、心肺蘇生法とAEDの使用手順等を盛り込み、学校、家庭、地域と連携した取組を進めている。</p> <p>○市教委では、児童生徒の健やかな成長を育むべく、今後も、いのち最優先の教育を一層推進していく。</p>
担当課	学校教育課

## ◎再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	中村 益則 議員
発言事項	3 教育行政について
発言の要旨	(3)主権者教育の取り組みについて ア これまでの当市での子ども議会の開催状況について
質問内容	これまでの当市における子ども議会の開催状況について伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○子ども議会は、これまで計3回開催しており、「地方自治体のしくみを理解し、政治への関心を深めるとともに、郷土への愛着を育み、将来の担い手となる素地を養う」という趣旨から、市教委が主催し、議会事務局と連携して開催した。</p> <p>○第1回の11年度は、5月に「八戸市子ども議会」という名称で、市制施行70周年記念事業の一環として各小学校から代表児童1名を選抜し、計40名で開催した。第2回は、14年度に「八戸市中学生21世紀議会」という名称で、各中学校から代表生徒1～2名を選抜し計42名で開催した。第3回は、24年度に「中学生議会」という名称で、初めて単独校で開催し、江陽中学校3年生41名が参加した。</p> <p>○21年度にも市制施行80周年記念事業の一環として開催する予定であったが、新型インフルエンザ蔓延により、中止となった経緯がある。</p> <p>○主に市制施行記念など、節目にあたる年に開催してきており、児童生徒が議員役となり、当市の未来を見据え必要と思われる施策等について質問し、答弁するという市議会と同様の形式を用いている。</p> <p>○児童生徒からは、「議会のしくみがよく理解できた」「ふるさと八戸の将来を考え、真剣に考える機会になった」など、「子どもたちの政治への関心を高め、郷土への愛着を育む」という所期の目的は達成できたと認識している。</p> <p>○近年開催されていない理由として、開催に至るまでの日程調整や質問内容の精査、児童生徒に対する指導など、教職員に大きな負担が掛かることが挙げられる。</p> <p>○市教委では、学校の負担軽減を図るという視点で、3回目は単独校で開催したが、この方法であっても当該校の教職員への負担が大きかったことから、現在まで開催していないという経緯がある。</p>
担当課	総合教育センター

## 再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	

## 資料（提出様式）

質問者(議員名)	中村 益則 議員
発言事項	3 教育行政について
発言の要旨	(3)主権者教育の取り組みについて イ 今後の取り組みについて
質問内容	今後の取り組みについて伺いたい。
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	<p>○子ども議会開催に当たっては、政治への関心を高め、社会に貢献できる人材育成において意義のある取組ではあるが、教職員に対する負担が大きく、一般の「働き方改革の緊急提言」等の趣旨を踏まえれば校長会等と協議するなど、慎重に検討する必要があると考える。</p> <p>○児童生徒が議会を傍聴する機会に関して、小学校では3年生以上が実施する社会科見学として、中学校では社会科の授業の一環として位置付けて実施することが考えられる。</p> <p>○小学校の社会科見学的一端であれば、バス輸送費を補助し体験活動の促進を図る市の事業「広域的体験学習支援事業」通称「はっふる隊」を活用することが可能である。</p> <p>○選挙権がこれまでの20歳から18歳となり、早い段階から主権者教育の充実を図ることは、今後ますます重要になると認識している。</p> <p>○その方法と内容については、各学校が児童生徒の実態や地域の実情等を勘案して工夫していくことになる。</p> <p>○児童生徒が議会を傍聴できることについては、市教委としても各学校に対して十分に周知してこなかった現状がある。</p> <p>○今後、校長会等を通じ、議会運営の場面を傍聴することの有用性について情報を共有し、児童生徒の主権者教育の充実に一層努めて参りたい。</p>
担当課	総合教育センター

## 再質問

再質問の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
質問内容(概要)	
答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 部長
答弁内容(概要)	

## ◎要望

要望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
発言内容(概要)	